



第2回

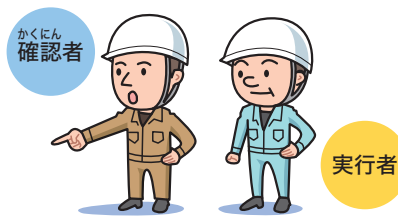
ダブルチェック

知識のある確認者がチェックを行うことで、セルフチェックでは感じなかった危険に気づくことがあります。重要なステップを実行する前には、ダブルチェックを行いましょう。



実行者

1 実行者は、意図される措置を指差呼称する



かくにん確認者

実行者

2 確認者は、独立したチェックで措置が正しいことを確認・同意する



かくにん確認者

実行者

3 実行者と確認者は、処置が正しいことに同意する

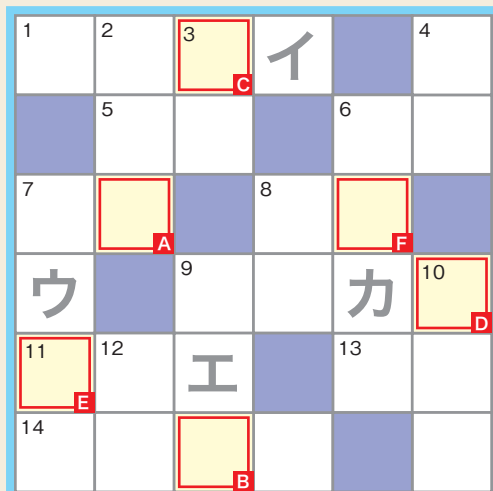


クロスワード

今月はクロスワードです。タテとヨコのキーをヒントにして、A～Fの印がついた箇所の文字を並べると、答えの言葉になります。みなさん、おわかりになりますか？

タテのキー

- 商品を売る場所
- 昆布や煮干しで取ります
- 裏磐梯に点在する「五色〇〇」
- 開花100パーセント
- 日本だと殿様、西洋では？
- 手の内側はひら、外側は？
- 果実のすっぱさの正体は「〇〇酸」
- 福島県で最も人口が多い「〇〇市」
- 現〇〇、〇〇産、〇〇庫



ヨコのキー

- 海の安全を守る「塩屋崎〇〇〇〇」
- お金を借りても貸しても付きます
- パパ⇄？
- 叔父の妻は？
- 青より濃い色
- 弘法大師のこと
- 会津にある不思議な建物は「〇〇〇〇堂」
- 虚仮の一念は何をも通す？
- 心や精神を意味する英語。〇〇〇〇コントロール



答え

▶応募方法・プレゼントのお受け取り方法

正解した方の中から抽選で5名様にプレゼントをさしあげます。

入退域管理棟、福島第一登録窓口通入口にある応募箱に必要事項をご記入のうえ、ご応募ください。

応募箱設置期間 6月20日～7月4日

- *応募用紙は応募箱横に設置しています。
- *当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
- *答えはウェブサイト「1 FOR ALL JAPAN」新着情報で発表します。

▶今号のプレゼント

福島名産のお菓子の詰め合わせです。

※賞品は写真と異なる場合がございます



1FOR ALL JAPAN
廃炉のいま、あした

ウェブサイトの紹介
<http://1f-all.jp/>

福島第一原子力発電所の廃炉事業を進める作業員のみなさんに、働く仲間や応援者のメッセージを伝えるため2015年10月に開設した「1 FOR ALL JAPAN」です。ウェブサイトでも本誌でも、作業員のみなさんを応援していきます。



月刊いちえふ。
2017年6月号

【発行日】2017年6月20日
【発行】
1 FOR ALL JAPAN 事務局
(東京電力ホールディングス SC室)
【お問い合わせメールアドレス】
info@1f-all.jp

ウェブサイトはこちら！



福島第一原子力発電所で働く
みなさんへのお知らせ

月刊いちえふ。



2017年

6月

INDEX

■ いちえふのいま

救急搬送用ヘリポート完成
移動時間が短縮されました！

■ 1Fを守る仲間たち

●H2エリア(地区)のタンク
設置工事に携わったみなさん

●応用地質

エネルギー事業部 広野調査所の
みなさん

■ KY Book【第2回】

■ いこいの時間

クロスワード

プレゼント

福島名産の
お菓子の詰め合わせ



とびっくす



雨天時の運転は要注意！

雨が多くなり、車のワイパーを使う頻度が増える季節です。ワイパーのひび割れやゴム交換など、事前の点検を心がけましょう。



第2回福島第一廃炉国際フォーラムが開催

日程は7月2日～3日。2日は、「地元の皆さんと考える1F廃炉」というプログラムが広野町で行われます。

<http://ndf-forum.com/home.html>



構内の下記場所で移動式給水車が利用できます

CCR※装備交換所 南側【7:00～11:00】
ものあげば 物揚場進入路付近 南側【7:00～11:00】
土捨て場北側バイパス道路脇【8:00～13:00】



※通称、シールド中央制御室

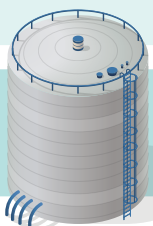
いちえふのいま

救急搬送用ヘリポート完成 移動時間が短縮されました！



廃炉作業中にケガや病気をされた方を運ぶためのヘリポートが福島第一原子力発電所の敷地内に設置され、5月9日から利用ができるようになりました。

急病の場合は、少しでも早く病院に行くことが重要です。このヘリポートを使用することで、移動時間を10分短縮することができます。今後も安心・安全な職場を目指して環境の改善を行っていきます。

30 H2エリア(地区)のタンク
設置工事に携わったみなさんタンクが1つできるたびに
仕事が形になったと実感します

新たな汚染水の発生は減ってきましたが、それでも汚染水をどうするかは、廃炉に向けて難しい作業の一つです。H2エリアでは、そうした汚染水を一時的にためておくために、タンク44基の建設を進めています。今回は、そのタンク建設工事を支える4人の班長にお話をうかがいました。

—— みなさんは、どんな仕事をしているのですか。

豊川さん：私たちタンク組立班は、タンクをつくるための資材をトラックから降ろして、それを組み立てるまでを担当しています。つまり、溶接の手前までが私たちの仕事です。

藤縄さん：組み立てたタンクは、専門の溶接士の方が溶接して完成しますが、そこできちんと溶接できているのかを検査するのが、私たちタンク検査班約30人の仕事です。

鈴木さん：工事に使う機械を動かすには電気が必要ですが、作業は屋外なのでコンセントがありません。そこで、屋外でも電気を使えるようにするのが私たち仮設電気班の仕事です。

Message

44基のタンク建設に向けて、チームIPC (IHIプラント建設)は一丸となって取り組んでいます。



(写真左から)

中村 修さん(東京動力) 鈴木 聡さん(協栄工業)
豊川 正修さん(日向工業所) 藤縄 勉さん(ジャスコ)



チームでH2エリア(地区)のタンク設置工事の安全祈願を行った

中村さん：私たち付帯作業班は、工事に使う資材を小名浜にある資材ヤードから運び入れたり、1Fで使わなくなった資材や廃棄物を運び出したりするのが主な仕事です。

家族に仕事を見てもらえたのがうれしい

—— この仕事をやってよかったといつ感じましたか。

藤縄さん：最終検査で合格をもらえたときですね。「これでひと安心。さあ次のタンクにとりかかろう」という意欲がわいてきます。

中村さん：私は直接タンクをつくっていませんが、それでもテレビでタンクが映った場面を見て、やりがいを感じました。家族にも見てもらえてうれしかったですね。



お仕事内容

H2エリア(地区)のタンク設置工事

H2エリアでは、2016年6月から、協力会社によって汚染水タンク44基の建設が進められている。2017年11月までにすべての建設が完了する予定。

● 続きはウェブサイト「1 FOR ALL JAPAN」でお読みください
URL: <http://1f-all.jp/interview/30/>

31 応用地質

エネルギー事業部 広野調査所のみなさん

1Fの仕事は万全の準備が必要
仕事の出来は準備で9割5分決まる

1Fの建物は大きかりなものが多いため、地盤がしっかりしているかどうか、前もってしっかりと調べておく必要があります。今回お話をうかがったのは、1Fでの地質調査に加えて、地下水が流れる量の測定など、廃炉に向けて重要な調査を行っている応用地質のお二人です。

—— どのような仕事をされているのですか。

大川さん：私の会社では、1Fで大きく2つの仕事を行っています。1つは地質調査。地面深く穴を掘る「ボーリング」によって地中の土や泥を取り出し、その地点の地質がどうなっているのかを分析したり試験したりします。もう1つは、観測用の井戸を掘って、地下水がどのくらい流れているのか観測しています。そうした作業全体を管理するのが私の仕事です。

北條さん：私は現在、排水路に流れる水の量を測っています。構内の4カ所で、1分あたりの流量を観測して、その結果を週に1回集計しています。

同じ機械を使っても、ほかの現場と1Fは違う

—— 他の現場との違いはどう感じていますか。

北條さん：同じ機械を使う場合でも、ほかの現場と1F構内では違いますね。全面マスクをしながら機械の表示を見なくて



休みに埼玉県の自宅に帰って
子どもに会うのが楽しみ

Message

廃炉作業メンバーの一員という誇りがあります。力を合わせて廃炉を目指しましょう。



大川 哲志さん

北條 真二さん

はならないので、最初とはまどいました。どんな見え方をするのか、精度が確保できるのかという不安がありました。

—— そうした難しい点に対して、
どんな工夫をされていますか。



大川さん：現場でのコミュニケーションはもちろん、準備も万全にしないといけない。ほかの現場で「準備が9割」とすれば、1Fは「準備が9割5分か、それ以上」で仕事の出来が決まります。もちろん、事前のKY(危険予知)訓練だけでなく、仕事後に事務所に戻ってからの「アフターKY」も欠かせません。徹底した打ち合わせが大切です。

つと
お勤め先

応用地質株式会社

1957年設立。地盤や地下水の性質などを調査・分析し、課題解決に向けた提案業務などを行っている。

● 続きはウェブサイト「1 FOR ALL JAPAN」でお読みください
URL: <http://1f-all.jp/interview/31/>